

世界に向けた「挑戦する法曹」の発信を

——創刊の祝辞——

早稲田大学総長 鎌 田 薫

早稲田大学は、その創立以来、「進取の精神」を体現した幾多の先人たちの挑戦によって、様々な課題に敢然と立ち向かい、変革への道筋を切り拓いてきました。そして現在、世界に貢献する“Waseda”の実現を目指して、世界への展開と発信の努力を重ねています。

このような中であって、本学の大学院法務研究科（法科大学院）と法務教育研究センターもまた、2004年の設立から今日に至るまで、新たな時代を切り拓く「挑戦する法曹」の養成に力を注いできました。私は、法科大学院創立以来、教員として、また2005年から2010年までは研究科長として、あるいはその後は早稲田大学総長として、その一端を担ってきましたが、そこで結実した重層的な国際化対応プログラム、女性法曹輩出促進プロジェクト、「挑戦する法曹」育成・特別コース等の取組みが「法科大学院公的支援見直し強化・加算プログラム」における2年連続全国トップの評価などの大きな成果となって現れていることを、たいへん嬉しく感じています。そして、こうした教育・研究の成果を発信するために『早稲田大学法務研究論叢』を創刊することは、司法制度改革の理念を推進することにもつながるといえます。

司法制度改革は、21世紀の日本社会において司法が期待される役割を十全に果たすための人的基盤を確立することなどを目的として進められてきました。そのための新たな法曹養成制度の中核を成すのが法科大学院制度です。全国の法科大学院は、法学教育・司法試験・司法修習を有機的に連携させた「プロセス」としての法曹養成を実現し、法律学と法実務におけ

4 早稲田大学法務研究論叢第1号（創刊号）

る「理論と実務の架橋」を図るという社会的使命を果たすべく、様々な取組みを進めてきていますが、『早稲田大学法務研究論叢』は、このような全国の取組みを牽引する成果の発信として、大きな役割を果たすことが期待されます。

『早稲田大学法務研究論叢』が「挑戦する法曹」の養成のための研究成果を全国に、ひいては世界に発信することを通じて司法制度改革に寄与することを祈念して、創刊の祝辞と致します。